



セグウェイの仕組みを紹介する学生ら二つ
くば市吾妻の筑波学院大学

社会活動での成長語る

筑波学院大 学生23組、OCP報告会

筑波学院大学（つくば市吾妻）が取り組んでいる社会参加型の教育プログラム「オフ・キャンパス・プログラム（OCP）」の学年報告会が23日、同大で開かれた。1年から3年生までの学生23組が2016年度に団体や企業の受け入れ先で活動した成果を発表した。

記者体験の長谷川さん

昨年8月に常陽新聞で取材記者を体験した3年長谷川文弥さん（21）も報告した。長谷川さんは、つくば市のまつりつくばや土浦市で開催されたサッカー大会の取材時を取り上げ、「一瞬の動きを写真に収めるのは大変だった」「緊張からか、選手に名前を聞いたときに、書き方は漢字なのかひらがなのかと、確認するのを忘れてしまった」などと振り返った。

長谷川さんはもともと、人との会話に苦手意識があり自ら行動することが得意ではなかったが、インタビューを経験し、「活動前よりも、積極性が生まれ、成長したと思う」と力強く語った。

「つくばりサイクルマーケット」の会場設営や警備に当たったという男子学生は「路上駐車する人たちに移動を促すことが大変だった」と話していた。

このほか、県立南生

涯学習センターで子ども対象のイベントに参加した学生や市民向けのセグウェイ試乗会のスタッフを体験した学生などが発表した。

報告会には受け入れ団体や企業の関係者が招かれ、学生の成果に耳を傾けていた。

常陽新聞は同大と連携し、毎週月曜日付で